

2025 年度事業報告

1. 会議

定時社員総会	3月29日
臨時社員総会	11月24日
総会	8月30日
理事会	3月29日、7月19日、11月1日
常任理事会	3月14日、3月21日、6月30日、10月10日

2. 学術集会 第72回学術集会：8月28日～8月31日（千葉）

3. 刊行物 機関紙：日本臨床検査医学会誌 第73巻1-12号 Supplement：第73巻補冊 英文誌：Laboratory Medicine International 誌 第4巻1-4号

4. 臨床検査専門医（機構・学会）、管理医 認定

臨床検査専門医認定試験	8月3日（東京大学）
臨床検査専門医・管理医更新	1月1日
臨床検査管理医講習・認定試験	9月23日（三井記念病院）

5. 会員数

	2023年度 (会費納入者数)	2024年度 (会費納入者数)	2025年度 (会費納入者数)
総会員数	3,048名 (2,724名)	3,027名 (2,584名)	2,962名 (2,242名)
正会員	2,819名 (2,558名)	2,800名 (2,419名)	2,735名 (2,087名)
(評議員)	(184名) (184名)	(182名) (182名)	(175名) (174名)
学生会員	66名 (64名)	64名 (60名)	56名 (49名)
名誉会員	42名	40名	45名
功労会員	121名 (102名)	123名 (105名)	126名 (106名)
賛助会員	37社 (37社)	42社 (42社)	39社 (39社)

・各年度12月31日の会員数

6. 関連団体（事業）

- 1) 日本臨床検査専門医会 {第4回春季大会（札幌）：5月23日(金)-24日(土)}
- 2) 日本臨床検査同学院（臨床検査士資格認定試験：二級・緊急・一級、遺伝子分析科学認定士資格認定試験：初級・一級、POCT測定士認定試験）
- 3) 日本臨床化学会 {第65回年次学術集会（愛知）：11月7日(金)-9日(日)}
- 4) 日本医療検査科学会 {第57回大会（横浜）10月3日(金)-5日(日)}
- 5) 世界病理学・臨床検査医学会連合会（WASPaLM）
- 6) アジア臨床病理・臨床検査医学（ASCPaLM）
- 7) 日本臨床検査標準協議会，8) 認定検査技師機構，9) 日本専門医機構，
- 10) 臨床検査振興協議会，11) 各種制度審議会・協議

事業報告書

2025年1月1日から2025年12月31日まで

I 事業の概況

1 事業の経過及び実績

(1) 社会公共性活動

日本臨床検査医学会は、一般社団法人として、積極的に社会公共性を意識した活動を展開しています。世界に先駆けて進む超高齢化への対応として内閣官房が主導する医療デジタルトランスフォーメーション（DX）では、国民の保険・医療・介護の情報が利活用され個人の健康増進に繋がる施策が展開され、関係諸機関が協働することが求められています。患者自身が必ずしも記憶していない検査結果情報はその中でも重要な項目であり、臨床検査の重要性が改めて認識されています。また、悪性腫瘍をはじめ様々な疾患において遺伝子・ゲノム関連検査とそれに基づく治療を行うことにより、今まで治療が困難であった疾患の制御や治癒が可能になり、国民にとって大きな福音となっています。この流れを持続的に推進するにあたり、治療に用いる薬剤と同等に重要なのが臨床検査の新規開発や制度管理・標準化です。

また、この数年で急速に進歩してきている人工知能（AI）も、医療における応用研究や実装が進んでおり、臨床検査領域においても様々な形での活用が進んでいくものと思われます。

このような医療環境や政策の変化に適応するため、本学会は、学術集会や学会誌等における臨床検査の社会的役割についての啓発活動の継続、標準化活動の推進、各種ガイドライン・指針の策定、臨床検査の臨床的価値・社会的有用性に関する客観的データの提示と提言などを通じて、臨床検査の視点から日本の医療の質向上に寄与しています。

また、日本専門医機構が定める基本19領域のひとつである臨床検査領域では、基本領域臨床検査専門研修の実施とそれを経た者に対する機構認定専門医審査、および学会認定の専門医審査を行い、社会から求められる有能な臨床検査専門医を育成しています。

(2) 学術活動

学会の事業の一環として、①2025年8月28～31日に千葉市で第72回学術集会を開催 ②機関誌として、国内誌「日本臨床検査医学会誌」の第73巻を12号刊行、国際誌「Laboratory Medicine International」の第4巻を4号刊行 ③「臨床検査専門医」・「臨床検査管理医」認定試験および更新審査などを行いました。

各種委員会活動においては、30近い数の委員会が前年度に引き続き活発に活動を行いました。詳細は別紙<報告事項：第1号議案-2>をご覧ください。

その他、研究の奨励・研究業績の表彰、関係学術団体との連絡・協力、国際的な研究協力の推進など、幅広い活動を展開しています。

2 対処すべき課題

(1) 学会活動の更なる活性化

本学会は、すべての医学・医療分野に関わる臨床検査を学術的な立場から先導していく役割を担っており、医療DXや遺伝子・ゲノム情報に基づく医療などの社会的ニーズを踏まえ、国民の健康増進・疾病の予防や早期発見・治療に有用な臨床検査医学の研究成果を得るために、学会活動を更に活性化する必要があると考えています。そのためには、学術集会の開催・機関誌の発刊・既存の各種委員会の活動に加えて、時宜を得たアドホック委員会等の立ち上げと活動の展開が必要と考えています。役員を中心として随時議論を行っていますが、評議員（社員）の皆様のご協力を改めて御願ひ申し上げる次第です。

また、本学会に限ったことではありませんが、会員の高齢化が進んでいます。本学会の活動を継続可能なものとするため、特に若手の医師等を会員として迎え入れ、次世代の本学会および臨床検査医学の研究を担う人材を育成していかなければなりません。既に行っている学会賞や学術推進プロジェクトによる会員の研究活動の推進は、次世代の臨床検査医学の研究を担う若手研究者の育成の一

環ですが、これを更に強化する必要があります。

また、臨床検査に関する社会への啓発活動として、保険診療としての臨床検査が適正に評価されるための活動も重要と考えており、日本臨床衛生検査技師会をはじめとする関連団体や他学会とも有機的に連携をとりながら継続的に議論しています。

(2) 社会が求める臨床検査専門医・臨床検査管理医の養成

社会に役立つ質の高い臨床検査専門医・臨床検査管理医数の増加が必須です。臨床検査を担う部門のあるべき姿に関しては、検体検査管理加算や国際標準検査管理加算などの診療報酬上の評価がなされ、臨床検査の品質・精度の確保に関する業務や医療機関の安全管理と標準化に関わる報告などが学会発行のガイドラインに示されています。しかし、これを的確に管理する能力をもった臨床検査専門医・臨床検査管理医が検査部門に所属することで具現化されます。そして、これらの専門医・管理医の養成は本学会の責務です。臨床検査専門医については、基本 19 分野の中でも少数に留まっており、専門医をめざす多くの専攻医を確保し育成するべく、継続的に議論しています。臨床検査管理医については、教育講習と認定試験の改善について検討を続けています。

(3) 医療 DX 推進とゲノム医療実装への対応

冒頭に述べた社会公共性の観点では、医療 DX と遺伝子・ゲノム医療の両面において本学会が果たすべき役割は大きいと考えます。標準検査コードや検査精度管理運用の強化、遺伝子関連検査に関して専門的知識や技能を備えた臨床検査医の育成が急務です。本学会ではこれらに関して、臨床検査関連の各種団体や官庁、および遺伝子関連学会と協議し、2025 年度に遺伝子関連検査精度管理医制度を発足させました。今後はこの制度に基づく管理医の活動を支援し、また適宜制度の見直しをはかるなどの対応を進めていきます。

3 設備投資の状況

当期における資産の取得状況はありません。

II 法人の概況

1 主な事業内容

本法人は、臨床検査医学（臨床病理学）に関する学理及びその応用についての研究発表、知識の交換、会員相互及び内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、臨床検査医学（臨床病理学）の進歩・普及を図り、もってわが国の学術の発展に寄与することを目的として次条の事業を行う。

- ① 総会、講演会、学術集会の開催
- ② 学会機関誌、学術図書及びその他の刊行物の発行
- ③ 学会認定臨床検査専門医、名誉臨床検査専門医、臨床検査管理医の資格認定
- ④ 臨床検査士およびその他の臨床検査に係わる資格認定
- ⑤ 世界病理・臨床検査医学会連合 [World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM)]、アジア臨床検査医学会連合 [Asian Societies of Clinical Pathology and Laboratory Medicine (ASCPaLM)] ほか内外の関連諸学術団体・協会との連絡並びに協力活動
- ⑥ その他本法人の目的を達成するために必要な事業

2 社員（2025 年 12 月 31 日現在）：175 名

3 役員（2025 年 12 月 31 日現在） 21 名

理事 大西 宏明（理事長）
柳原 克紀（副理事長）
森兼 啓太
吉田 博
堀田多恵子

増田 亜希子
松下 弘道
松下 一之
井上 克枝
上原 剛
下澤 達雄
山崎 正晴
高橋 聡
志村 浩己
中山 智祥
伊藤 弘康
長尾 美紀
末廣 寛
橋口 照人
監事 山田 俊幸
諏訪部 章

- 4 決算期後に生じた法人の状況に関する重要な事実
記載すべき事項は、ありません。

2025 年度 日本臨床検査医学会 各種委員会 活動報告

1) 編集委員会 (委員長: 下澤達雄、担当理事: 吉田 博)

- ①日本臨床検査医学会誌 (和文誌) は 2026 年からは隔月刊に変更となる。
- ②和文誌の投稿論文の論文審査について検討を行った。
- ③英文誌 Laboratory Medicine International (LMI) は順調に年 4 回発刊できている。
2025 年・第 4 巻は 1 号 (3 月)、2 号 (6 月)、3 号 (9 月)、4 号 (12 月) が発刊された。
- ④LMI のシステム体制として ScholarOne Manuscripts と J-STAGE 搭載は今後も継続される。
- ⑤LMI 専用の WEB ページを 2025 年 12 月に公開した。 <https://lmi.jp/articles/>
- ⑥LMI の投稿規定を見直している。
- ⑦EBSCO (Elton Brighton Stephens Co.) への和文誌掲載をスタートした。

2) 教育委員会 (委員長: 植木重治、担当理事: 山崎正晴)

- ①【主催】第 37 回関東・甲信越支部総会 RCPC (指導医講習 2 単位) 2025 年 11 月 15 日 出題者・解説: 松本剛
- ②【共催】第 2 回医学生・研修医のための臨床検査セミナー (指導医講習 2 単位) 2025 年 9 月 7 日 RCPC 講師: 松本剛、ファシリテーター: 山口宗一、中村文彦、植木重治
- ③【第 72 回日本臨床検査医学会学術集会 教育委員会企画】2025 年 8 月 30 日 RCPC (指導医講習各 1 単位) 会員アンケートを実施。RCPC1 座長: 松本剛・常川勝彦、出題者: 千藤荘、回答者: 志谷映璃・宮下竜伊、RCPC2 座長: 中村文彦、井戸健太郎 出題者: 藤井聡、回答者: 水谷信介・松尾収二 企画調整: 上岡樹生
Catch Up セミナー (領域講習各 1 単位) セミナー1 司会: 志村浩己 演者: 石丸裕康、セミナー 2 司会: 松下弘道 演者: 湯地晃一郎、セミナー3 司会: 山口宗一、演者: 仁井見英樹

3) 保険診療委員会 (委員長: 松下一之、担当理事: 森兼啓太)

- ①委員会開催: 令和 8 年 (2026 年) 診療報酬改訂 (中医協での議論) に向けて日本臨床検査専門医会と協働して診療報酬調査専門組織 (医療技術評価分科会) に提案した。
- ②2026 年度診療報酬改定に向けた活動
・日本臨床検査振興協議会への参加: 診療報酬改定小委員会、診療報酬制度小委員会。
- ③日本医師会・疑義解釈委員会への対応
・月 2 回程度開催され、特に供給停止予定の体外診断薬連絡に対して正副委員長または委員会への意見収集 (メール審議) がなされている。現在のところ異議申し立ては行われていない。
- ④新規保険収載項目の情報提供
・日本臨床検査薬協会との共同作業により、新規保険収載項目の情報を監修し、会員メール、日本臨床検査医学会誌、ホームページを通じて会員に提供している。

4) 学会賞委員会 (委員長: 飯沼由嗣、担当理事: 井上克枝)

- ①2025 年 6 月 17 日 (月) に Zoom 開催された学会賞選考委員会で受賞候補者を選出し理事会に報告、理事会にて受賞者が決定された。受賞者は下記の通りである。学術賞 (柳沢龍氏)、検査・技術賞 (該当者無し)、若手研究者奨励賞 (太田悠介氏)、優秀論文賞 (石嶺南生氏)。
- ②2023 年度より募集要項を変更し、学術賞と検査・技術賞のどちらかの賞のみ受賞できることとしたが、検査・技術賞は応募が無い状況が続いている。このため、一定の条件のもと、検査・技術賞受賞後に学会賞に応募できるよう、規定の見直しを行った。

5) 学術推進化委員会 (委員長: 浅井さとみ、担当理事: 井上克枝)

- ①2026 年度学術推進プロジェクト研究課題募集要項およびチェックリストを機関誌 10 月号と学会 HP に掲載した。
- ②2025 年度学術推進プロジェクト研究として 7 課題の応募があり、2 課題を採択した。
- ③2024 年度採用 学術推進プロジェクト研究課題の中間報告 2 課題を受理した。
- ④2023 年度学術推進プロジェクト研究課題採択者 2 名による最終報告発表が 8 月の学術集会 (幕

張メッセ)で行われた。

6) 標準化委員会 (委員長: 木村孝穂、担当理事: 増田亜希子)

- ①「臨床検査値 学生用共通基準範囲」を改訂し、学会ホームページ、並びに学会誌で公表した。
- ②Lp(a)の標準化作業継続中。
- ③血中および尿中 C-ペプチドの標準化作業を継続中。

7) 精度管理委員会 (委員長: 小池由佳子、担当理事: 堀田多恵子)

- ①CAP 国際臨床検査成績評価プログラム報告:
参加施設は、118 施設であり、2024 年度最終報告数から 19 施設減かつ 2 施設増で、最終的に 17 施設減となった。日本の CAP サーベイ参加施設のピアグループ解析許可を日本事務局の CGI と協力して CAP に依頼することを検討していく予定である。
- ②臨床検査室グローバルニュース報告: 年 4 回、毎号約 10000 部発行している。精度管理委員会の各先生方に精度管理の重要性をインタビューする記事を順次掲載する予定である。引き続き記事の確認、英文翻訳の校閲も行っていく予定である。
- ③第 1 回精度管理委員会 (9 月 30 日に Web 開催) 報告: 例年通り CAP サーベイ活動報告と 2026 年度カタログおよび関連書類の承認、今後のスケジュールについての確認を行った。

8) EBLM 委員会 (委員長: 佐藤雅哉、担当理事: 下澤達雄)

- ①第 72 回日本臨床検査医学会学術集会にて委員会企画講演、テーマ:「進化する医療 AI・医療 AI の基礎と発展」、座長: 佐藤雅哉、佐藤正一。ハンズオンセミナー、座長: 佐藤雅哉、片岡浩巳、演者: 山下哲平 (R を用いたデータ解析の基礎: データ前処置とエラー対処)では、実践的な R を用いた実践応用を行った。
- ②EBLM 委員会のウェブサイトにおいて委員会活動記録の更新を実施した。

9) 倫理委員会 (委員長: 木村孝穂、担当理事: 柳原克紀)

2025 年 8 月 29 日に第 72 回日本臨床検査医学会学術集会において委員会企画として「インフォームド・コンセントと学会発表における倫理～入門編」のタイトルで講演をおこない、その内容を学会誌で報告した。本講演は日本専門医機構の専門医共通講習として実施した。

10) 利益相反委員会 (委員長: 山崎正晴、担当理事: 柳原克紀)

・利益相反管理事業についての理事会への諮問
2025/8/29 に開催された利益相反委員会において、①外部委員の推薦、②学会の「医学研究の利益相反 (COI) に関する指針」および「細則」の改定案、③日本医学会 COI 管理ガイドライン 2025 の学会 HP 掲載、④学会の組織 COI 開示、⑤役員などの COI 自己申告書の改定について審議した内容を理事会に諮問し (2025/9/29)、第 3 回理事会 (2025/11/1) にて審議の結果、その方向性が承認された。

11) ガイドライン作成委員会 (委員長: 政木隆博、担当理事: 吉田 博)

- ①第 72 回学術集会 (幕張) 会期中の 2025 年 8 月 31 日にガイドライン作成委員会を開催した。臨床検査のガイドライン JSLM2027 発刊に向け準備を開始した。
- ②第 72 回学術集会 (幕張) において、2025 年 8 月 30 日に臨床検査のガイドラインに関する委員会企画セッション「臨床検査のガイドライン 2024 の概要とトピックス」を開催した。オンデマンド配信も併せて行った。
- ③従来の COI 指針や細則の中で、日本医学会ガイドライン策定参加資格ガイダンス (2017 年度版) からの引用箇所が最新の 2023 年度版に改訂されることになった。
- ④臨床検査のガイドライン JSLM2024 に関して、AI 利用に関する権利委託を学術著作権協会に申請した。
- ⑤臨床検査のガイドライン JSLM2024 への追加記載に関して問い合わせがあり (多発性骨髄腫等の治療効果判定に使用する検査キット)、当委員会で審議した。審議の結果、当該検査キットが保

険適用となった時点でガイドラインへ追加記載する方針となった。

12) 検査項目コード委員会 (委員長：内海 健、担当理事：松下一之)

- ①「電子処方箋・電子カルテの目標設定等について」(厚生労働省：2025年7月1日)では、JLAC11を厚生労働省標準規格として、電子カルテ等の標準仕様で統一的な検査コードとして位置付けされた。
- ②検査項目コード委員会からの委託を受けて、JLACセンター(康センター長)が開設され検査項目コード委員会との協力体制が強化され、「JLACセンター付番部門審議委員会」にて新規体外診断薬を中心にしてJLACコードの付番を行っている。
- ③JLAC11コード表への移行に伴いJLACセンターではJLAC11付番細則の改定を定期的に行い、今後公表していく予定である。2026年にも公表する。
- ④JLACセンターにおけるJLAC11の付番・採番に関して、定期的な会合を行い合同でルールを策定し、公表、公開していく。

13) 広報委員会 (委員長：千葉泰彦、担当理事：下澤達雄)

- ①レジナビフェア東京に出展した(2025年6月、東京)。去年に続き、2回目。
- ②レジデントノート「検査のTips」が、2025年7月号、第100回で終了。過去の記事が、2025年6月からオンラインコンテンツとして順次閲覧可能となった。
- ③8月の学術集会で、広報委員会企画「学会の未来を担う人材をどう勧誘し育てるか? 広報の視点から考える課題と展望」を開催した。
- ④JACLaS EXPOに出展した(2025年10月、横浜)。

14) 臨床検査室医療評価委員会 (委員長：松下弘道、担当理事：堀田多恵子)

- ①2023年11~12月に行なったアンケート調査「ポストパンデミックの臨床検査体制」の結果の一部を日本臨床検査医学会雑誌に投稿したところ、reviseとなっている。
- ②2022年11~12月に行なったアンケート調査「COVID-19パンデミックと臨床検査体制」および2023年11~12月に行なったアンケート調査「ポストパンデミックの臨床検査体制」について、感染症に関する部分を合わせて作成した英文論文が投稿中となっている。
- ③2025年8月~9月に「臨床検査室の取り組みと課題に関する全国実態調査2025」アンケート調査について論文準備中である。

15) 遺伝子委員会 (委員長：松井啓隆、担当理事：松下一之)

- ①2025年度学術集会にあわせて委員会を開催し、令和7年度厚生労働科学特別研究事業「LDTの臨床実装に向けた研究」班会議の取りまとめ案を共有し、LDTの有り方に関する意見交換を実施した。
- ②同じく2025年度学術集会時に全ゲノムワーキンググループ(遺伝子委員会に措置したWG)のミーティングを行い、進捗状況に関する情報共有を行った。引き続き国内の体制整備に必要な項目の整理を行う予定である。

16) 国際委員会 (委員長：下澤達雄、担当理事：井上克枝)

- ①2025年度国際学会奨励賞受賞候補者を選考し國宗勇希、畑山祐輝、佐藤直和の3氏を受賞者として推薦した。
- ②World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine(WASPaLM) 2025 (Oct14-17, 2025、インド)におけるJSLMセッションThe Frontier of Infectious Disease Testingにて、村上正巳先生座長のもと上原由紀先生: Molecular epidemiology of MRSA from the clinical laboratory. 宇野直輝先生: CRISPR gel: a molecular diagnostic tool for infectious diseases. 上巻 義典先生: Quantitative measurement of infectious disease antibody titers using smart devices.にご講演をお願いした。
- ③2025年度インドネシア臨床検査医学会中に行われたASCPaLMシンポジウムにおいて、康東天先生にご講演 Common-Use Reference Interval and Japan Laboratory Code (JLAC)をお願い

いした。Board Meeting に下澤と康先生が出席。

- ④2026年10月2日-4日に台北で開催される ASCPaLM 学術集会 Asia セッション “Education, Recruitment, and Retention Strategies for the Laboratory Medicine Workforce.” に山田俊幸先生をご推挙した

17) 医療安全委員会 (委員長：三枝 淳、担当理事：森兼啓太)

- ①第72回学術集会におけるシンポジウム (委員会企画) 「医療事故と医療安全：事例から学ぶ」を企画・実施した。演者：清水郁夫先生、小松康宏先生、渡辺卓先生。座長：森兼啓太担当理事、三枝淳委員長。
- ②第72回学術集会会期中に医療安全委員会会議を現地開催し、第73回学術集会時委員会企画について検討した。次回のテーマとして、医療DXと医療安全に関する内容が候補に上がった。企画を進めている。

18) 会則改定委員会 (委員長：浅井さとみ、担当理事：増田亜希子)

- ①定款の改定について：社員総会参考資料等の電子提供措置の導入社員総会参考資料等の電磁的提供措置を可能とするため、定款の改定案が検討された。
- ②細則「臨床検査士資格認定制度運用規則」の改定について
「臨床検査士資格認定制度運用規則」の第2条と第4条の2カ所について、資格認定試験を「実施」を「支援」に修正した案が理事会に提示された。理事会で審議の結果、修正が認められた。

19) チーム医療委員会 (委員長：小谷和彦、担当理事：山崎正晴)

- ①パニック値の運用に関する提言への照会対応。パニック値の全国調査の報告。
- ②チーム医療と多職種連携における臨床検査とその専門家の役割に関する検討；在宅医療、ならびに日本臨床検査技師会からのタスクシフトの提案への関与 (委員会を設けて意見交換済)。

20) 学術集会企画委員会 (委員長：吉田 博、担当理事：柳原克紀)

- ①第72回学術集会は2025年8月28日(木)～31日(日)の日程で、千葉市(会長：大西宏明)にて現地開催された。2025年9月18日(木)～2025年11月28日の期間にオンデマンド配信が行われた。
- ②第73回学術集会は2026年12月17日(木)～20日(日)の日程で、千葉市(会長：吉田博)にて現地およびオンデマンド配信で開催予定である。
- ③第74回学術集会は2027年11月11日(木)～14日(日)の日程で、宇都宮市(会長：森兼啓太)にて現地およびオンデマンド配信で開催予定である。
- ④第75回学術集会(2028年度)については、2025年11月1日の第3回理事会および同年11月24日の社員総会の議を経て、高橋聡氏(札幌医科大学)が学術集会長に決定した。

21) ワークライフバランス委員会 (委員長：西川真子、担当理事：松下弘道)

- ①9月7日に「第2回医学生・研修医のための臨床検査セミナー」をweb形式で行った。参加者は医学生12名、医師65名(うち初期研修医7名、臨床検査専攻医14名)であった。
- ②第72回学術集会で、委員会企画を行った。(前半：「知っておくべき超音波検査の基本/ハンズオンセミナー」、後半：「検査医の集い：対面懇親会」)。
- ③臨床検査専門医取得に関するサポートセンターには継続的に相談があり、随時対応をした。件数は男性15名、女性5名で例年より多かった。

22) 統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会 (委員長：湯地晃一郎、担当理事：堀田多恵子)

- ①2025年度第1回委員会を開催(2025年8月29日)。
- ②第72回学術集会にて特別シンポジウム1「JLAC11が駆動する未来の医療：臨床検査データの二次利用と持続可能な保険医療体制の構築に向けて」を開催(2025年8月30日)。
- ③生活習慣関連臨床団体拡大会議に湯地委員長がオブザーバー参加。改訂案が近く公開予定。

④ HL7 FHIR に関する NeXEHRs 課題研究会に堀田担当理事、湯地委員長、市村委員参加。

23) 地域医療における臨床検査に関する委員会（委員長：小谷和彦、担当理事：森兼啓太）

①臨床検査専門医の所属する地域と施設に関する学会ウェブサイト上での公開。

②臨床検査医の地域分布と検査の実施パフォーマンスに関する地域相関をもとにした委員会での意見交換。

24) ICD-11 委員会（委員長：後藤和人、担当理事：吉田 博）

①社会保障審議会統計分科会 ICD 専門委員会に後藤委員長を派遣した。

②厚生労働省から依頼のあった ICD-11 改正内容および ICD-11 for MMS(ICD-11 死亡疾病統計用分類)の追加・変更分の和訳の確認作業について回答を行った。

③ICD-11 準拠の統計分類案（基本分類表、疾病分類表、死因分類表）は、2026 年 1 月の官報告示、2027 年 1 月 1 日に施行されるため、各学会で準備をしている。

25) 感染症に関する委員会（委員長：柳原克紀、担当理事：森兼啓太）

①第 72 回学術集会におけるシンポジウム「感染症対策における微生物検査の役割と品質保証の課題」を企画・実施した。演者：中山麻美先生、森永芳智先生、井上貴雄先生、近藤昌夫先生。座長：柳原克紀先生、森永芳智先生。

②「nodoca に搭載された AI による COVID-19 診断機能」に対する学会のステートメントの作成依頼があり、委員会内で慎重に検討を重ねた。現時点では臨床の有効性や実用性が十分に確立されたとは言えず、学会として推奨は困難である旨、依頼元（沖山先生、アイリス株式会社 代表取締役）に丁寧な文書で回答した。

26) 専門医制度委員会（委員長：松下弘道、担当理事：吉田 博）

①臨床実績代替のための筆記試験を 2026 年 1 月初旬〆切として実施した。45 名中 43 名が合格した。

②2025 年 9 月に実施した専門医・認定医資格に関するアンケート調査結果をまとめた。現在取得している資格の多くは機構専門医であること、他基本領域については内科領域が最も多く、次に病理領域が多いことなどの実態が明らかとなった。

27) 遺伝子関連検査精度管理医に関するアドホック委員会(委員長：松井啓隆、担当理事：松下弘道)

①遺伝子関連検査精度管理医制度を決定し、2025 年度より本制度に基づく管理医の認定事業を開始した。

②遺伝子関連検査精度管理医制度に関連した e ラーニングコンテンツを整備し、公開した。

28) 評議員審査委員会（委員長：大西宏明）

2026 年 1 月 1 日付評議員再任該当者 26 名について、委員会、理事会、臨時社員総会に再任予定者として報告し承認を得て、該当者の再任申請書類審査をした結果、24 名が承認、2 名は辞退となった。

29) 受験・更新資格審査委員会（委員長：金子 誠）

2026 年 1 月 1 日付の審査結果を報告。

①管理医:更新（73 名中 62 名承認、退会 3 名、未提出 8 名）、専門医資格者新規申請（5 名承認）

②学会専門医:更新（機構専門医移行 21 名、名誉専門医 7 名、保留 3 名、未提出 4 名、退会 1 名）

③学会専門医更新審査（機構専門医更新 21 名、名誉専門医 7 名ほか）

④名誉専門医:更新 1 名、新規申請 7 名を承認

⑤専門医試験過去問題の学会誌掲載について準備中

30) 試験委員会 (委員長：金子 誠)

- ①臨床検査専門医 (専門医機構認定・学会認定) 試験の運営・採点・合否判定を確認した。
- ②試験実施上の課題として、試験実施時の不備がないよう対策、キャリアブレーション問題の導入、面接資料の改善を指示した。
- ③2026年度試験委員は2025年度メンバーを継続する。
- ④試験問題について、明確な設問、カリキュラム準拠を徹底し、可能な限り肯定形1択形式とすることを提案した。難易度の高い問題は過去問として公表し、受験者の事前準備を支援する。

31) 2025年度臨床検査専門医認定試験実行委員会 (委員長：佐藤雅哉)

- ①第5回機構専門医試験、第42回臨床検査専門医認定試験は、東京大学本郷キャンパスにて2025年8月3日(日曜日)に1日で執り行われた。
- ②機構専門医受験者16名、学会専門医受験者1名の申込があった。
- ③機構専門医受験者1名、学会専門医受験者1人より試験辞退の申し出があり、計15名(全員機構専門医受験者)が受験を行った。
- ④2025年8月14日に東京大学本郷キャンパスにて行われた委員会判定会議では、機構専門医受験15名中合格11名(合格率73.3%)と判定された。
- ⑤学会専門医試験は2025年で終了となり、2026年に第6回機構専門医試験を実施予定(日時：2026年8月2日(日)、会場：東京慈恵会医科大学)。

32) 2024・2025年度臨床検査管理医認定試験実行委員会 (委員長：金子 誠)

- ①第17回臨床検査管理医講習・認定試験を2025年9月23日に実施し、受験者33名全員が合格した。
- ②第18回は2026年9月6日(日)13:00~17:00、三井記念病院で実施予定。講習会講師は交代予定。

33) 日本専門医機構認定臨床検査専門医研修プログラム認定委員会 (委員長：松下弘道)

- ①2026年度基幹施設の研修プログラムの一次審査認定を行い、日本専門医機構に二次審査依頼をした。更新申請4施設(5年目にあたる施設)、新規申請3施設、変更申請30施設であった。
- ②2025年実施の日本専門医機構認定臨床検査専門医認定試験受験希望16名の専門研修修了書類の審査を実施した。
- ③プログラム、研修に関する種々の問い合わせに対応した。

34) 日本専門医機構認定臨床検査専門医更新資格審査委員会 (委員長：金子 誠)

- ①研修・資格更新のQ&A拡充を継続し、ホームページを整理した。
- ②更新時のテスト方法は他学会状況を見ながら検討。共通講習B対象者を機構に確認。
- ③更新資料を定義した。査読ある論文の提出、個人情報保護、受講証明事前提出を明確化する。更新延長・猶予基準を機構方針に合わせ改訂する。
- ④更新試験にCBT導入を提案した。会員マイページで一元管理し、事務負担を軽減する。専門医認定試験レベルとし、透明性の高い能力評価体制を構築する。